

本号が読者の皆様のお手元に届いているということは、2025 年も終わりが近付き、まもなく 2026 年がやってくる、そんな時期かと思えます。かくいう私は、11 月後半から続く出張で慌ただしく、そして消耗していることでしょう……。

【注】本稿の締め切りは 10 月中旬に設定されています。

ここ数ヵ月を振り返ってみると、8 月は最高気温が 35℃を超える猛暑日が続きました。9 月上旬には、東京都内を中心に記録的な豪雨となり、1 ヶ月が経過した現在でも豪雨の被害から復旧が遅れている地域もあるようです。また、10 月に入ったにもかかわらず、日中は汗ばむ陽気が続いていることから、秋がやってくるのか疑わしい、そんな毎日を過ごしています。このように、2024 年も似ていたと記憶していますが、季節の移り変わる様子が以前とは全く変わってしまいました。「四季（春・夏・秋・冬）を感じることができなくなり、二季（夏・冬）になってしまう」、そんな話題がいろいろなメディアで取り上げられています。春の風物詩であるお花見ができなくなる、「○○の秋」といった言葉を聞かなくなる、そんな日が来るのもそう遠くないかもしれません。なんだか寂しさを覚えてしまい

ます……。

さて、話をガラリと変えます。10 月 6 日からノーベル賞ウィークが始まりました。化学賞は、「金属有機構造体の開発・発展」に対し、北川進先生、リチャード・ロブソン先生、オマー・M・ヤギー先生の 3 名に授与されることが発表されました（10 月 8 日）。ここ数年、私はノーベル化学賞の発表をノーベル財団ホームページ上のライブ映像で視聴しているのですが、2025 年は大事な会議の時間帯と重なってしまったため、あの独特の瞬間を味わうことができませんでした……。帰宅後にはいくつかのニュース番組を視聴しましたが、ノーベル化学賞の発表からわずか数時間の間に、一般の方々にもわかりやすいような説明が用意されていることに改めて驚きました。また、いくつかのニュース番組から立て続けにインタビューを受けていらっしゃる北川先生のお姿を拝見し、背筋が伸びるような思いで非常に刺激を受けました！

2025 年も残り 3 ヶ月を切った今日この頃、「いろいろなことがあったけど、いい一年だったな」と振り返ることができるように、健康に気を付けながら、今できることに真摯に取り組んでいこうと思います。

（山本崇史）

カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI 以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



紅葉 務台 潔